



「人間らしく生きたい! 人間裁判」 岡山ささえる会ニュース

2015.4.25 NO1

発行 「人間らしく生きたい! 人間裁判」ささえる岡山の会
〒700-0054岡山市北区下伊福西町1-53
(岡山県社保協内: 086-255-1140)



記念講演する井上英夫先生

岡山・ささえる会を結成 世界の生存権保障の理論まで高めよう

選出された役員のみなさん

【代表委員】

岩間 一雄(社保協会会長)
大西 幸一(生健会会長)
伊原 潔(県労事務局長)
則武 透(弁護士)
氏平 みほ子(県議会議員)

【事務局長】

川谷 宗夫(社保協事務局長)

【事務局】

民医連、人権連、生健会、
医労連、県労

昨年10月30日に岡山地裁に提訴された「人間らしく生きたい! 人間裁判」(生活保護基準切り下げ反対裁判)を勝利させようと、4月15日、岡山市内で生活保護裁判をささえる会の結成総会がひらかれました。

会場には、原告団・弁護団の他、支援する労組・民主団体から65人が参加し、会の名称を「『人間らしく生きたい! 人間裁判』岡山ささえる会」とすることや宣伝・学習会、裁判傍聴などを行う当面の行動が提起されました。

結成総会では、準備会を代表して大西幸一代表委員が原告団が42人となったこと、第1回期日が5月27日に開かれることなどを報告したあと、井上英夫先生(金沢大学名誉教授・生存権裁判を支援する全国連絡会会長)が記念講演を行い、「戦後の人権保障理論の大きな進歩によって、世界の人権保障の理論は、働け



なくても、義務を果たせなくなっても人間らしい生活を保障しなければならない、というところまで到達している。それに比べると日本の考え方はまだまだ大きく遅れている。この裁判を通じて、世界の人権保障の考え方を広げて行こう」と呼び掛けました。このあと、原告団の宇野さん、イタカさんの2人から裁判に向けての決意が語られました。

原告2人から 決意

宇野 正一さん

私は3年前に脳こうそくで倒れ、記憶障害となりました。リハビリをへてやっと社会に復帰することができたが後遺症のため仕事はない。私は入院中から日本に生まれてよかった、と思ってきました。憲法25条によって生かされてきたからです。そのささやかな生活がいま危なくなっている。声を出さなければ、このささやかな生活すら守れない状況になってきています。自分自身が成長しながら、大きな声を出してたたかっていきたい。

憲法に生かされてきた

ムハメド・イタカさん

今日、4月15日は母の命日です。事情があって私たちは58年間別れて暮らしていました。母は福島県に住んでいました。帰る交通費を出してほしいと頼みましたが聞いてもらえませんでした。結局、私は母の死に目にあえませんでした。いま、私たちの生活を苦しめているのは生保基準の切り下げだけではありません。物価の値上がり、消費税増税・・・これらはすべての働く人たち、非正規の人たち、若者に直結する問題です。みんなで団結してたたかっていきましょう。

母の死に目にも会えず